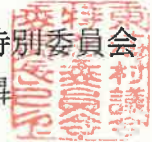


令和2年11月18日

東海村議会  
議長 飛田 静幸 様

原子力問題調査特別委員会  
委員長 鈴木 昇



## 原子力問題調査特別委員会 調査視察報告

原子力問題調査特別委員会において、調査視察を行った結果を、次のとおり報告いたします。

### 記

#### 1. 視察日程及び視察場所

令和2年10月8日(木) 午後1時～4時30分

日本原子力発電(株) 東海第二発電所の施設及び工事現場の視察

- ・管理区域内 : 原子炉建屋内
- ・屋外 : 代替淡水貯槽, 緊急用海水ピット 他
- ・発電所外周 : 防潮堤, 可搬型設備保管場所 他

#### 2. 視察者

鈴木昇, 武部慎一, 大名美恵子, 村上孝, 舛井文夫, 江田五六, 恵利いつ  
岡崎悟, 越智辰哉, 河野健一, 吉田充宏, 植木伸寿, 阿部功志, 寺門定範  
笹嶋士郎, 三上修 【欠席: 大内則夫】

飛田静幸議長

事務局 (岡部聡, 関田砂織, 松本信浩, 金澤綾香)

### 3. 調査内容

(1) 13:15～13:40 【東海村原子力館別館 会議室】

- 資料【安全性向上対策のための主な工事状況と予定について】に基づき、主な工事状況と予定について概要説明を受け、質疑応答を行った。

～ 移動 ～

(2) 13:50～14:00 【東海テラパーク 屋上】

- 東海テラパーク屋上から、施設の全景及び工事位置の確認。

～ 移動 ～ ※2班に分かれて実施

(3) 14:00～15:50

【東海第二発電所発電施設及び工事現場の視察】

- 原子炉建屋内の燃料貯蔵プールの見学。
- 火災防護対策で要求されている、難燃ケーブルへの交換及びケーブルトレイを防火シートで覆っている状況の確認等。
- 代替淡水貯槽・緊急用海水ピットの見学。
- 防潮堤、可搬型設備保管場所の見学 他。

～ 移動 ～

(4) 16:10～16:30 【東海村原子力館別館 会議室】

- 質疑応答

※東海第二発電所は、新規制基準への適合性確認審査を受けるため、2014年5月20日原子力規制委員会に、原子炉設置変更許可申請を行い、2018年9月26日に許可を受けた。その後、工事計画認可及び運転期間延長認可を受けたことに伴い、現在の安全性対策工事が進められている状況である。2022年10月の完成を目指し、工事が行われていた。

#### 【防潮堤建設工事】

建設が予定されている防潮堤は、津波の評価の結果、高さ17.1mと評価設定されたことから、発電所周辺を高さ20m、全長約1.7キロの壁で囲い、津波の浸水を防ぐものである。

その防潮堤建設のためには、防潮堤周辺の地盤改良等の工事が必要となる。防潮堤建設のために付随して行われるこれらの工事は、基礎地盤工事であり、安全性の確保のための重要な基礎工事である。

#### 【防潮堤周辺地盤改良工事】

標高最大20mの防潮堤を建設するための基礎工事として、防潮堤周辺区域の地盤改良工事等（地盤改良機で固化剤を注入・攪拌し地盤強化）が各所で進められていた。

#### 【取水口前面貯留堰の設置】

海水（冷却水）の取水口の前面に、海水を建屋側に送るための貯留堰の設置が進められていた。これは、原子炉冷却のための最前線の工事でもある。海水を貯留し、建屋側にポンプにて海水を送り込むための貯留堰は、津波の際の引き波対策も兼ねる重要な冷却設備である。

## 4. 各委員所感

### 鈴木委員長

当初、6月議会中に調査視察を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期をしていた。今回の調査視察実施にあたっては、密を避けるための班分けや、事前に体調確認をする等の対策を講じた上で実施した。

安全性向上対策工事に伴い、干渉物撤去、地盤改良や土留め造成等の様々な工事が進められており、多くの機材・重機類が入っていた。毎日作業員が1000人から1500人程度は関わっているとのことで、コロナ対策についても自主的に事業者が実施しているとのことだった。

原子炉建屋内に入る際には、何度もセキュリティチェックがあり、社員も私たち視察者と同じようにチェックされている状況を確認し、セキュリティ

の嚴重さに驚いた。

今後の調査視察については、原子力研究開発機構を予定しているがコロナの状況をみて判断したいと考える。

#### 武部副委員長

東海発電所敷地内・防潮堤周辺区域は、大掛かりな安全性向上のための工事が続けられている。コロナ禍における作業はルール化を図り、グループで活動するなど、大変な安全管理をしてスケジュールをこなしている。

敷地内では、同時並行で、多種多様な工事が進められている。これら工事に係る、総合的な人間の管理／工程管理などは、想像を絶するものと思われる。心と体に余裕をもって、安全に作業を進めて頂きたいと願う。

また、大変忙しい時期に、現地の調査視察にご協力いただいた、原電の方々、工事現場の方々、関係者の方々に深く感謝する。

#### 大名委員

あまりに壮大な工事に改めて驚いた。この工事にかかる必要敷地の拡大（砂防林伐採、高台、地下への重要設備設置、貯留堰設置等）、予算及び作業員配置規模等からは、動かさない原発の安全確保のためだけに行う工事とは、どうてい思えない。

しかもこれを完成させてもなお、稼働の際の「絶対安全」は確保されない。住民への工事に関する説明は開始されていないまま、工事だけは進められている状況だが、少なくとも新安全協定を締結している6市村首長や6自治体担当課の職員等は、早期に十分な説明を受け、現地を視察した方が良いと思う。ただ見方としては、①これほどの対策を講ずるのだから、大丈夫だろう。②これほどの対策をとっても「絶対安全」とは言えない原発は、動かさない方がいい。の大きく2つに別れると思われる。

#### 村上委員

防潮堤の整備は、津波対策の要であり、地域の安全・安心を最優先にした対策として、速やかに整備されることを期待する。

#### 舛井委員

津波対策としての防潮堤が完成すれば、東海第二発電所は守ることはできるが、「久慈川河口」と「豊岡なぎさの森」の間に堤防がなければ、豊岡、亀下、竹瓦に甚大な被害が出るのが危惧される。村としての総合的な津波対策を考える必要があると感じた。

#### 江田委員

安全性向上対策のため、防潮堤建設をはじめとし地盤改良・土留め壁造成など、ハード面での対策工事現場を確認したが、そこまでの大規模な工事を行う必要があるのか疑問を感じた。

・なお、過去の災害の多くはヒューマンエラーによるものが多い。ヒューマンエラーを減らすための対策の方が、むしろ重要ではないかと思う。

#### 恵利委員

大がかりな工事であろうと想像はしていたが、実際に視察をしてみると想像以上であった。20年たらずの稼働のために、どれだけの経費を必要とするのか、膨大な数字に疑問が残る。また、工事に伴い、かなりの森林緑地が破壊されたことは残念である。

#### 岡崎委員

久しぶりに日本原電の構内に入り、現状を確認した。多くの作業員が携わり大規模な工事となっている防潮堤建設は、多くの村民も関心があり、必要な工事であることから、安全第一で建設工事を進めていただきたい。

#### 越智委員

本来であれば、もっと早い時期に現場を視察したかったが、コロナの影響等により、実施時期が遅れたことは止むなし。

敷地内のいたるところで、掘削や地盤改良、干渉物の除去等が行われており、防潮堤の本体を含め本格工事はこれからという印象。全体の工程としては、概ね予定どおりの進捗とのことだが、今後も、継続的に現地を訪問し、進捗状況を確認する必要がある。

## 河野委員

安全性向上対策工事は、原電の敷地全般で行われており、樹木の伐採や、造成工事により、以前の景観と比べ工事が随分と進捗している様子が伺えた。原電からの説明では、現在約千名が作業を行っているとのこと。

特に関心があった防潮堤設置工事については、現在は地盤改良を行うべく、地盤改良機による表層改良や削孔機で土中に穴をあけ、薬液注入を行う段階であった。現地において、想定される実際の防潮堤の高さは、想像以上にスケールが大きいことが分かった。今後、工事が進むことにより、作業員の人数が増えていくとのことだが、コロナ感染症対策、工事の安全対策についてしっかりと取り組んでいただきたいと考える。

## 吉田委員

コロナ禍での工事で、対策として工事業者の自主的なPCR検査の実施や、県外への移動自粛など他の業種と比較しても大変厳しい対応をされていることが分かった。さらに1,000人を超える工事業者が入所しているが、工事業者の挨拶、行動がテキパキしており、好感が持てた。地域企業のモデルになるよう期待する。

東海第二発電所の安全性向上工事は2022年度まで続くため、定期的な状況報告及び現場視察を希望する。

## 植木委員

発電所管内では、安全性向上に向け、防潮堤設置のための地盤改良工事や土留め壁造成、掘削など15項目にわたる大規模工事が敷地内全域で盛んに行われており、工事関係者が工事にあたる姿を拝見する事もでき大変参考になった。

今後も安全第一で、スケジュール通りに発電所内の安全性向上のための工事が進むよう期待したい。

## 阿部委員

「安全性向上対策のための工事」は大規模で相当の費用がかかっているものと見えた。

工事の最大の焦点はコスト問題である。原電は、根本問題であるその費用の捻出方法について、あいかわらず「答を控える」の一点張りで要領を得ない。「工事費用は」と問うと「2340～2350億円」だという。これは1740億円で事故対策費用（特重施設用）の610億円を加えた、当初の

ままの額である。ところが実際にはそれでは済まず、3500億円に膨らむとの報道もある。原電は、費用は売電料の前払いでしのいでいるという。しかし原電の年間利益は50億円程度なので20年動かしたところで1000億円であるから、総括原価方式も撤廃された中でどうして返済できる額ではない。

いずれにせよ、東電など電力会社からの支援の契約は、それを証明する書類が何も示されず、支援の確約は不透明のままである。工事を請け負っているゼネコンとはどういう契約になっているのだろうか。

実際に、原電の〈設置に関する経理的基礎〉及び〈維持管理に関する経理的基礎（廃炉費用も含む）〉は計算が成り立たない。原電は早急に明確な数値とその根拠を公にしなければならないだろう。そうでなければ工事の安全性を確保しているといくら主張したところで、どこからも信頼は得られないのではないか。

あるいは債務超過会社という宣告を避けるために再稼働をめざす体裁をとっているのではとさえ勘ぐりたくなる。莫大な費用を投資した工事のあとに何が起こるのか、大きな不安を抱かざるを得ない。

#### 寺門委員

①安全性向上対策については、2018年度に許可・認可され、2022年12月完了の計画で対策工事が行われていた。現在の状況は、土木工事が中心であるが、各種設備の設置工事が敷地内各所で本格的に始まっていることが感じられた。

②工事の進捗に合わせ各現場の状況は、日々変化することになる。視察のため徒歩で移動する通路の途中に30cm位の高さの配管が通っていたところがあった。この配管をまたがないで通行するよう階段で通路を作っている。跨ぐと足を引っ掛け転倒する可能性があるため、階段でわたる橋にしたほうが災害の発生が少ない。また、工事エリアは、フェンスなどで通路などと分けし、関係者以外が立ち入らないようにしていた。色々なところで、危険個所に対して対策を施し、安全確保に注力していることが分かった。今後とも、無事故、無災害で進むことを望む。

③特定重大事故等対処施設については、昨年9月に申請され現在審査中との事であった。審査対応はもとより、関連した工事計画の申請等着実に進めることを望む。

④今回の視察に当たって、新たに設けられた原子力館（テラパーク）別館で説明を受けた後、発電所に移動した。別館は原研通りの街中にあり、一般の方も行きやすい場所であった。住民の身近なところにこのような施設があることは良いことである。多くの方が来場し、原子力に対して理解活動が着実に進められることを望む。

### 笹嶋委員

東海第二発電所「安全性向上対策のための主な工事状況と予定」について、2020年度第2四半期の説明を受けた。写真図面等や工事スケジュール等を使い分かりやすかった。

発電所施設の視察については、バスの車窓からとバスを降りて施設内に入り、担当者から説明を受けた。施設内は何度か訪れていたことから、通常の状況と現在の工事現状との比較ができた。

安全性向上対策の工事については、大変重要で早期に完了してほしいが、手抜きや間違いなどを起こさぬよう最大限努力をしていただきたい。

### 三上委員

①日本原子力発電株式会社の原子炉建屋に初めて立ち入ったが、諸外国の原子力発電所に比べて建屋の構造が格段重厚で安心感があった。

②現在は発電していないが、多くの技術者や業者（日立プラントコンストラクションほか）が現場内で保守点検作業に当たっていることを確認した。運転停止後も時間と金を掛けて、入念に保全されていることがわかった。

③主説明者のほか、随行の会社幹部が視察側に詳しい説明ができていることから、安全管理や発電所運営技術に関して、所内関係者にレベルの高い管理がなされているものと予想される。

④当委員会の訪問にあたり、日本原電に服装を確認のところ、東海村議員のユニフォームでの訪問を遠慮するよう通知された。本来は作業服に加えて、ヘルメットや安全靴の着用程度は視察側に要請すべきであり、世間一般の安全衛生感覚と異なっている。安全な施設の説明と逆行している。今後、東海第二の再稼働に向けた日本原電の市民に対するアクションは改善を要する可能性がある。

⑤大規模な津波対策工事は着々と進められているが、村内及び周辺市町の業者はあまり採用されていないように見える。現場で建設業法の施工体制台帳を閲覧したかたができず。関係工事の発注や更なる雇用の拡大に期待したい。

⑥東海第二は茨城県の指導を受け、冷却ポンプを嵩上げしたために、東日本大震災では難を逃れたことを、茨城県や日本原電は、住民に対して広く周知することも必要と考える。